



2月の生活目標
感謝の気持ちを伝えよう
2月の保健目標
心も体も元気にすごそう

絶えず自身を見つめ直し、前進を！

校長 浅野 博一

新しい年がスタートし、1か月が経ちました。この1月の自分を見つめ直し、また、新しい決意で2月をスタートしてまいりたいと思います。

大学空手部時代、OBの社会人の先輩が、「スズメバチの巣の外壁は、芸術的な色彩で、内部はとても精密な六角形の壁で仕切られ、自身の体長と比べとても巨大な建築物を見事に建設している。ただし、来年は、この間口を広げよう等、自身の行為を振り返り、反省し、次に生かしていくという行動は決してしない。人間のみが、自身を見つめ直し、向上していくことができる。」と語り、後輩である現役部員に、圧倒的な強さで相手に勝つために、自分の弱点・改善点をあぶりだして、その克服を強く意識し、全身全霊で稽古に臨み・自身を鍛えろと指導されたことを思い出します。

つばさ小全教職員、子どもたち、共に前へと突き進んでまいります。

さて、先日は、おやじの会の皆様がお子さんたちと一緒に、校庭の側溝清掃を行っていただきました。最後のフタを閉じる際、ぴたっとはまった瞬間、大きな拍手と歓声が沸きました。様々な活動に、厚く感謝申し上げます。

右写真は、1年生国語の研究授業の様子です。日々、より良い授業を目指し、研鑽に励んでいます。また、次の写真は、6年生大綱



チャレンジの様子です。互いに声を掛け合い、たとえ、失敗しても、励まし合って挑戦を続ける姿に、とても胸が熱くなります。下の写真は、放課後、全教員の研修の様子です。所属学年を越えて



グループを作り、互いの授業の腕を磨くべく学び合っています。



改めて、こうした学校の日常を見つめ直す映画に出会いました。

東京都世田谷区立塚戸小学校の1年間（令和3年度）の子どもたちと教師の姿を撮影したドキュメンタリー映画『小学校～それは小さな社会～』です。この映画には様々なご意見があることと思います。この映画の中で、元文科省視学官、國學院大學教授 杉田 洋氏が、「日本の集団性の強さは、諸刃の剣」と塚戸小の学校研修で述べている点です。

我が国日本は、戦時中、学校で軍事教練をして、集団性の訓練を行い、子どもたちを戦争に駆り立てた深い反省があります。そこで、戦後の民主化の中で、子ども中心の学校づくりの理念の下、「特別活動」が教育課程に位置付けられてきたのです。

この映画は、海外で先行して上映され、「教室の清掃」「給食の配膳」「児童会活動」「学級活動」「運動会」といった「特別活動での姿」が、…フィンランド、アメリカ、韓国、ドイツなど世界中の国々で、数々の映画祭での入選や、テレビ放映など大きな反響があったといえます。

……教材をなくして泣いている子を、みんなでなだめて探してあげる1年生の姿。出来ない逆上がりや友だちの補助で出来た姿。不得手な縄跳びを家に帰っても練習して、ぐんぐん出来るようになり、運動会での晴れやかな笑顔。新入生歓迎の演奏オーディションで勝ち取ったシンバル、練習で上手に出来ず涙を流していたものの、本番では見事に演奏でき、担任の教員に駆け寄って、背中に飛びつく姿。…そして、より良い教育活動を生み出していこうと真剣に議論する教職員の姿。

こうした感動的な姿は、日常的につばさ小学校においても展開されています。

学校が、学習指導にとどまらず、子ども同士のトラブルへの対処や、心の成長を促す指導等、知・徳・体を一体的に育てている“日本の教育”は、世界に類を見ないとして、中教審答申では、【日本型学校教育が、世界に誇るべき成果を挙げてくるのができたのは、子供のためであればと頑張る教師の献身的な努力によるものである】と明言しています。

わたしの教員生活も残り数年となりました。絶えず、日常を見つめ直し、つばさ小学校を“理想の学び舎”として築き上げてまいります。

おめでとうございます！

◆さいたま市書きぞめ展
【推薦賞】



【特選賞】

【優良賞】

◆日進ステーションギャラリー書きぞめ学校代表作品
【入選】

◆第12回さいたま子ども短歌賞
【入選】

◆第57回手紙作文コンクール絵手紙部門
【佳作】



◆学校の様子◆



1年生 昔遊びの会
地域の方とふれ合い、人とのかわりを学びました。



おやじの会 「楽しい！全校みんなでやりたいな！」との子どもの声がありました。

職員復職等のお知らせ

